

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 17 日現在

機関番号：62601

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2011～2013

課題番号：23330248

研究課題名(和文) 大学教員に求められる教育能力の質保証と大学教育資格の在り方に関する国際比較研究

研究課題名(英文) A Comparative Study on the Quality Assurance of University Teachers' Competencies and its Teaching Qualification

研究代表者

川島 啓二 (KAWASHIMA, Keiji)

国立教育政策研究所・高等教育研究部・部長

研究者番号：50224770

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 9,300,000円、(間接経費) 2,790,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、大学教員に求められる教育能力は、いかなるものであり、どのようにしてその質保証が図られるべきなのかを国際比較研究によって有用な知見の整理を行ない、大学教員の教育能力の在り方についての制度的展望を得ようとする試みである。

上記の目的を達成するため、大学教員資格の制度的整備については「先進」国である国々、具体的にはイギリス、オランダ、スウェーデン、フィンランドについて訪問聞き取り調査を行ない、大学における教育職能の共通要素の整理(要素の基盤となる能力像の洗い出しと抽出)を行なって、制度化の前提となる枠組案を構成した。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study is to explore the future prospects of university teaching qualification and competence. We examine how the pedagogical competence for university teaching is described, and how its quality assurance system is developed and managed in other countries. To accomplish this purpose, the comparative method is utilized to learn from excellent precedents and have implication. As the first step in our analysis, we conduct interviews with actors in other countries, such as UK, the Netherlands, Sweden and Finland. Second, we categorize university teaching tasks to extract the university teaching competence. And finally, we present the qualification framework for university teaching.

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：教育学・教育社会学

キーワード：教育社会学 高等教育 FD

1. 研究開始当初の背景

大学教授職に関する研究としては、有本章、山野井敦徳らによる「21世紀型アカデミック・プロフェッション構築の国際比較研究」(2006-2009年度科研)、『大学教授職の総合的研究』など、総合的・包括的な研究がある。また、大学教員の職業的在り方については、その歴史的展開や領域について寺崎昌男らが論考をまとめている。政策動向としては、大学設置基準の改正(平成19年7月)によって、いわゆる「FDの義務化」がなされながら、「授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施するものとする。」と規定され、概念構成は従前のままとなっている。一方、中教審答申「学士課程教育の構築に向けて」(2008)では、職能開発が強調され、「FDを単なる授業改善のための研修として狭く解するのではなく、我が国の学士課程教育の改革を目的とした、教員団の職能開発として幅広く捉えることが適当である。」とされ、またさらに、「大学教員の公共的な役割・使命、専門性が必ずしも明確に認識されないままになっている。」「大学教員の専門性をめぐる共通理解を作り、社会に宣言することが求められる。」と指摘されながら、具体的な方向性が示されるには至っていない。そのような中で、英国に例をとりながら、大学教員の職能開発を本格的に取り上げたものとして、加藤かおり2008、「英国高等教育資格課程(PGCHE)における大学教員の教育職能開発」、日本高等教育学会編『高等教育研究』第11集がある。また東北大学高等教育開発推進センターが、教育関係の共同利用拠点としての活動の一環として、大学院科目の枠組の中で大学教員養成プログラムを構想するなど、活発な動きも出てきている。

かかる状況において、大学教員の教育能力やその開発に特化した研究のさらなる深化と蓄積が求められていること、イギリスだけではなく、広く国際比較の観点が必要なこと、知識基盤社会における大学教員の教育能力という、大きな文脈の中での理論的定が必要なこと、比較分析やデータによる実証だけではなく、大学教員の教育能力に関わるモデル提示や政策提言を試みるなど、研修プログラムの構築などの実践的要請に貢献できるような方法と成果の提示が求められていること、といったような研究上の課題が存在している。

2. 研究の目的

高等教育の質保証に関して、様々な制度上の整備や実践的蓄積が進む中で、大学教員に求められる教育能力の明確化とその質保証については、問題の構成や知見の集積・分析が熟することのないまま、今日を迎えるに至っている。

本研究は、大学教員に求められる教育能力

は、いかなるものであり、どのようにしてその質保証が図られるべきなのか、高等教育研究において未だ本格的な取り組みに至っていないこの課題について、我が国のFDの実践的文脈において重ねられてきた知見・経験の分析や開発的研究の成果、また、その制度的形態に関わる海外諸国の実態や、大学教員の教育能力に関する基本的考え方に関わる知見の収集、さらには、我が国の大学教員やその教育能力に関わる状況の整理・分析によって、我が国高等教育にとっての重要課題である、大学教員の教育能力の在り方についての制度的展望を得ようとする試みである。

なお、本研究において「大学教育資格」とは、大学教育を実際に行うものの資格として、英国のPGCHEや北欧諸国の例のように、一定のプログラム修了を前提とするものを指すものとし、我が国のように、学校教育法(第92条)や大学設置基準において抽象的な能力要件を課するもの、あるいは、その他の国で広く採用されているように、博士や修士といった学位要件を課するものと混同しないように留意する。

3. 研究の方法

本研究の問題意識から、先行研究・関連研究の整理・検討を行い、それらを本研究の理論枠組から再定位して、本研究の理論枠組や概念の強化を図る。課題の再確認と補強、補足的な視点と知見の獲得といったこととあわせて、本研究の意義に関わる論点の洗い出しと整理を進め、研究上の空白領域であった大学教員の教育能力に係る質保証問題を、我が国における高等教育の質保証システムの全体像の中で考察する。

大学教育資格について、各国の基本情報を収集し、本研究にとって最重要のデータ基盤を構築する。大学教育資格や大学教員要件など明確な制度に係る基本情報を訪問調査によって収集・整理する。大学教育資格については、その性格、プログラム内容、実施主体、制度、履修要件、単位数、修了証明、大学教員としての正採用との関連など、想定する教育能力との関係のある調査項目の設定を行い、それに基づいて調査を実施する。以上の作業によって、各国の制度がどのような特徴を持っているのかを明らかにする。

大学教員の教育能力についての基本的考え方については、それを示す直接的な指標を見いだすことが困難なため、各国の専門家団体の担当者や大学関係者からの聞き取りによって、概括的な知見を得る。それによって、各国の基本的な考え方の概要を把握する。

4. 研究成果

教授資格に関わる枠組み比較として、日本(「新任教員研修の基準枠組」)(国立教育政策

研究所)、イギリス(Higher Education Academy の UKPSF: UK Professional Standard Framework)、イギリス(SEDA (Staff and Educational Development Association) の Valued & PDF: Professional Development Framework)、オランダ(トゥエンテ大学の Teaching Competence)、スウェーデン(ウプサラ大学の Teaching Competence)を基準の焦点、認証の対象、認証機関等、基準の要素といった観点から、整理・比較した。

日本(「新任教員研修の基準枠組」)

基準の焦点は新任研修であり、基準の要素は以下の通り。1. 大学コミュニティについての理解 1-1 大学に関する基礎知識を得る 1-2 同僚とのコミュニケーションを得る 2. 授業のデザイン(目標設定、実施計画、成績評価) 2-1 授業デザインのための基礎知識を習得する 2-2 授業デザインのためのスキルを修得する 3. 教育の実践 3-1 教育実践に関する基礎知識を習得する 3-2 学習者中心の授業および学習支援を実現し、学生の学習を促進する 3-3 学生と適切なコミュニケーションをとる 4. 成績の評価、フィードバック 4-1 教育の評価やフィードバックについての基礎知識を得る 4-2 適切な成績評価およびフィードバックを行う 5. 教育活動の自己改善・キャリア開発、教育開発 5-1 自己改善・キャリア開発や教育開発に関する基礎知識を習得する 5-2 自己改善・キャリア開発や教育開発のためのスキルを修得する

イギリス(全英 UKPSF)

基準の焦点は教育・学習支援の職能。認証の対象は教員個人というよりは教育プログラム。認証機関等は HEA、基準の要素は以下の通り。活動領域 A1 学習活動や研究プログラムを設計および計画する A2 指導や学習支援を行う A3 評価を行い、学習者にフィードバックを与える A4 効果的な学習環境および学生の支援とガイダンスに対するアプローチを開発する A5 研究、スカラーシップ、および教育専門家としての活動評価を盛り込み、教科/学問分野およびその教授法における継続的な職能開発に携わる。コア・ナレッジ K1 科目の教材 K2 科目分野およびプログラムのレベルに合った適切な指導・学習方法 K3 学生の学習方法(一般的な学習方法と科目/学術分野における学習方法) K4 適切な学習技術の使用とその価値 K5 指導の有効性を評価する方法 K6 特に指導を主眼とする学問的・職業的実践における品質保証および品質強化が意味するもの。専門職の価値 V1 個々の学習者と多様な学習コミュニティを尊重する V2 高等教育への参加と学習者にとっての機会平等を推進する V3 根拠に基づいたアプローチと、研究、奨学金、および継続的な職能開発の成果を用いる V4 職業的実践に及ぼす影響を認識し、高等教育が機能する

広い脈絡を認める

イギリス(SEDA の Valued & PDF)

基準の焦点は、専門性、学習成果(目標)。認証の対象は教員個人というよりは教育プログラム。認証機関等は SEDA。基準の要素は以下の通り。Value ・学習方法の理解 ・学問、専門能力、倫理実践 ・学習コミュニティに関する取り組み、開発 ・多様な効率的活動、包括性の推進 ・専門職能の実践に関する継続的省察 ・人材とプロセスの開発 SEDA-PDF Core Development Outcomes 1.自身の職能開発目標、方向性、優先事項の明確化 2.初期および/または継続的職能開発の計画策定 3.適切な開発活動の取り組み 4.開発および実践、および2つの関係について省察・レビュー SEDA-PDF Specialist Outcomes 各専門活動別の目標あり

オランダ(トゥエンテ大 Teaching competence)

基準の焦点は、教育能力(コンピテンス)。認証の対象は、教育プログラムというよりは教員個人。認証機関等は各大学(ベンチマーク調整)。基準の要素は、教員が持つべき6種類の能力(および評価基準)。1.指導の開発 2.指導の実践 3.試験と評価 4.指導の組織化および調整 5.指導の評価 6.専門職化

スウェーデン(ウプサラ大 Teaching competence)

基準の焦点は、教育能力(コンピテンス)。認証の対象は、教育プログラムというよりは教員個人。認証機関等は各大学(ベンチマーク調整)。基準の要素は以下の通り。1.学生の学習を促進する姿勢 指標 ・熱意のあるティーチング理念を適用する ・学生および教師の役割および責任の明確な認識がある ・ティーチングと向き合う自身の意思を学生に伝える ・全学生と十分な交流を図る努力をする ・優れたティーチング風土を創造する ・学生の過去の知識・資質についての知識を持つ ・教案において学生を起点に据える ・学生が良い学習習慣を育むよう助ける ・自主的に学ぶよう学生を刺激する ・学生の声に耳を傾ける 2.科学的アプローチ 3.科目への広く適切な知識 4.学生の学習の仕方に関する知識 5.ティーチングに関する知識 6.教育目標と組織に関する知識 7.全体論的見方(コース運営) 8.適用するティーチングスキル 9.継続的向上への努力 10.リーダーシップと組織に関する技量

大学における教育職能の共通要素を抽出するために、上記の5つの事例にみる共通要素を洗い出し、そこから、わが国の事例からの知見等も参照しながら、要素の見出しとなる能力(案)を構成した。その結果、その能力の基盤となる枠組みとしては、知識とコンピテンスの2側面で整理し、【知識】1.専門

科目/分野の教育内容 2.大学における学習および教育実践に関する知識 3.大学および大学教育(理念、歴史、社会的文脈)に関する知識 【コンピテンス】1.教育および学習プログラムを設計する能力 2.教育および学習支援を実践する能力 3.成績評価(教育および学習成果の評価)およびフィードバックをする能力 4.教育プログラムの運営、学習の基盤および環境づくりをする能力 5.教育の専門職能を継続的に評価、省察し、改善する能力という試案を策定した。

大学教育改善やFDの領域では、教育方法、教育内容、学習成果、分野別質保証、カリキュラム等が進んであるが、大学教員の教育能力に関わる研究は緒についたばかりである。本研究が対象とする領域そのものが、今後の大学教育改革にとって、必要欠くべからざるものでありながら、本格的に取り組みされてこなかった。また、比較研究の一般的手法である、制度内容や背景要因を対照・比較する分析の手法に加えて、ワークショップ等によって抽出的に構成したモデルを概念的な枠組として措置している点に本研究の方法的な独自性がある。高等教育の質保証を第一線で担うのは大学教員であり、その大学教員の教育能力の質保証を達成していく上で、本研究によって得られる知見が有効に生かされることが期待される。

5. 研究成果の発信

本研究の集大成として、各国のFD担当者やその国際連携組織との交流を図り、グローバルな観点から大学教員資格の問題を定位するという観点から、平成25年7月に京都・東京で、各国のFD担当者の専門家団体の国際的組織であるICED(International Consortium for Educational Development)と共同で国際シンポジウムを開催し、大学教員資格や大学教員の能力開発を含めた、高等教育開発の現状と今後の在り方について、知見と論点の整理を行なった。

6. 研究組織

(1)研究代表者

川島 啓二 (KAWASHIMA, Keiji)
国立教育政策研究所・高等教育研究部・部長
研究者番号：50224770

(2)研究分担者

佐藤 浩章 (SATO, Hiroaki)
大阪大学・全学教育推進機構・准教授
研究者番号：10346695

加藤 かおり (KATO, Kaori)
新潟大学・教育・学生支援機構・准教授
研究者番号：80323997

沖 裕貴 (OKI, Hirotaka)
立命館大学・教育開発推進機構・教授
研究者番号：50290226

(3)連携研究者

岡田 佳子 (OKADA, Yoshiko)
長崎大学・大学教育機能開発センター・准教授
研究者番号：40363345

杉原 真晃 (SUGIHARA, Masaaki)
山形大学・基盤教育院・准教授
研究者番号：30379028

近田 政博 (CHIKADA, Masahiro)
名古屋大学・高等教育研究センター・准教授
研究者番号：80281062

土持 ゲーリー法一
(TSUCHIMOTCHI, Gary Hoichi)
帝京大学・高等教育開発センター・教授
研究者番号：00422064

中島 英博 (NAKAJIMA, Hidehiro)
名城大学・大学・学校づくり研究科・准教授
研究者番号：20345862

渡邊 あや (WATANABE, Aya)
国立教育政策研究所・高等教育研究部・総括研究官
研究者番号：60449105